

自己評価報告書

平成23年 3月31日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20330143

研究課題名（和文） ナラティブアプローチによる治療的意味生成過程に関する研究

研究課題名（英文） Study on the meaning genetic process in the psychotherapeutic conversation from narrative based approach

研究代表者

森岡 正芳 (MORIOKA MASAYOSHI)

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：60166387

研究分野：臨床心理学

科研費の分科・細目：細目：心理療法 質的研究

キーワード：ナラティブ 心理療法 意味生成 質的研究

1. 研究計画の概要

本研究は治療的会話としてのナラティブアプローチの特徴を、セラピーに固有の関係性の質という観点から明確にし、臨床的適用の可能性を探ることが目的である。そのために関係性および時間要因、そして社会文化的文脈の要因に注目し、臨床のフィールドに生じる治療的会話のミクロな分析と、関係場の特徴を把握する。これによって治療的会話に生じる新しい意味生成が、自己の再構成をうながし、ライフストーリーの再編へとつながる過程を明らかにする。

2. 研究の進捗状況

3つの研究グループに分かれ、ナラティブアプローチに関わる内外の文献を収集し、内外の実践研究者との情報交換を行い、ナラティブアプローチの臨床実践領域における理論を整理した。ナラティブ概念について、個人の生の文脈や世界観のなかで出来事が意味づけられ物語性が構築されるという意味でのナラティブと、治療的会話の微細部分に、発話主体の意味行為の働きをとらえ、事実内容を語りなおしていく行為の遂行に関わるナラティブという二つの群に分類可能であることが確認された。

3つの研究グループはそれぞれのフィールドにおいて、ナラティブのミクロ分析のための資料収集を行った。各フィールドで収集された会話資料をもとに、関係レベルのメッセージをまず詳細にとらえ、内容レベルでのメッセージとの照合を行った。以上を通じて、ナラティブにおける素材（対話におけるテーマ）とナラティブの行為との間に生じる差異に着目し、語り手（クライアント）が自己を再構成する契機をとらえることを試みた。と

くに、過去の自己と現在の自己がセラピーの関係場の中で対話を生むという治療的契機について、対話的自己論による分析を行った。以上の成果については国際学会を含む5つの学会で発表を行った。

これまでに障害者とその家族など当事者たちのライフストーリーを聴取し、資料を蓄積した。今後各フィールドでの治療的会話を、社会文化的文脈を切り離さずにとらえていく作業を行い、治療的会話がライフストーリーを動かし、ナラティブの再編へとつながるはたらきを明確にしていく予定である

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

理由：研究計画に記載された各年度の研究目標はおおむね達成されている。

4. 今後の研究の推進方策

2011年9月に2つの学会（日本心理学会・日本心理臨床学会）にて、研究グループ全員が集まり、ナラティブ視点にもとづくリサーチ及び心理療法に関わるワークショップ及びシンポジウムを企画している。治療的会話に生じる新しい意味生成が、自己の再構成をうながし、ライフストーリーの再編へとつながる過程について、臨床実践とリサーチ両面にわたり、成果を発表し、内外の研究者と議論する予定である。これによって心理療法効果の共通要因の一つ、関係性の質の課題に接近することが目指される。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 20 件)

(1) 岸本寛史 身体と言語とカルテ：言語化とカルテ N:ナラティブとケア 2, 2011 査読無

(2) 山口智子 高齢者のライフレビューに関する研究と実践—語りを理解する2つの視点と日常場面への展開

自己心理学研究 4, 1-17 2011 査読有

(3) 森岡正芳 一人の障がい者の中で私たちは—当事者の視点をめぐって 発達 123, 76-82, 2010 査読無

(4) 森岡正芳 対話空間を作る - インタビュー実践としてのセラピー 質的心理学フォーラム 1, 45-56, 2009, 査読有

(5) 森岡正芳 物語論から神話の心理学へ 臨床心理学 8-1, pp. 35-40 2008, 査読無

(6) 森岡正芳 想起・反復・現実構成 心理学評論 51-1 114-119 2008 査読有

(7) Morioka, Voices of the self in the therapeutic chronotope: Utushi and Ma. *International Journal for Dialogical Science* Vol. 3, No. 1, 93-108 2008 査読有

〔学会発表〕(計 23 件)

(1) 山口智子 DV相談における支援者の「語り」—過酷な体験の語りを聴くことによる心理的影響, 日本発達心理学会第 22 回大会ポスター発表 2011 年 3 月 26 日 東京学芸大学

(2) Morioka “Constructing the double dialogical space “ 6th International Conference on Dialogical Self, 30, September 2010 Athens, Greece

(3) 森岡正芳 「ナラティブアプローチを学ぶ」日本心理臨床学会第 29 回春季大会ワークショップ 2010 年 5 月 23 日 大妻女子大学

(4) 森岡正芳 「物語と現実：ナラティブ概念のコアとは」日本質的心理学会第 6 回大会

準備委員会企画シンポジウム 2009 年 9 月 12 日 北海学園大学

(5) 森岡正芳 「時間とプロセスをとらえる質的研究」サトウタツヤ 森岡正芳 企画「時間とプロセスを捉える質的研究のあり方を大いに語る」日本質的心理学会第 6 回大会自主シンポジウム 2009 年 9 月 13 日 北海学園大学

(6) 森岡正芳 『かたり』と学生相談：語る力・聞く力 日本学生相談学会第 27 回大会学会基調講演およびシンポジウム 2009 年 5 月 25 日 津田塾大学

(7) 岸本寛史 沈黙の多面性 第 27 回日本心理臨床学会 2008 年 9 月 5 日 筑波大学

(8) Hirao, Naka, Narita, Futamura, Miyata, Tanaka, Hayashi, Kishimoto Self in Conflict—Recovery from non-fluent aphasia through sandplay therapy. The 8th International Neuropsychoanalysis Congress 2008. 7. 28 Canada

〔図書〕(計 11 件)

(1) 野村直樹 遠見書房『ナラティブ・時間・コミュニケーション』 2010 154 頁

(2) 金井寿宏 森岡正芳 高井俊次編 ナカニシヤ出版『語りと騙りの間』 2009 233 頁

(3) 岸本寛史 氏原寛編 新曜社 『心理臨床の広がり』 2009 146 頁

(4) 森岡正芳 編 金剛出版『ナラティブと心理療法』 2008 246 頁

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

なし